

「退色性着色剤」で 施工管理が簡素化 RCG インナーシール^{アルファ}工法

施工状況



施工後日数経過状況



色が消える!

近年、コンクリート構造物の長寿命化は喫緊の社会問題となっています。その切り札として期待されているのが、コンクリートの表層部を改質させ劣化因子の浸入を防ぐ「けい酸塩系表面含浸材」の塗布による保護です。

しかしけい酸塩系表面含浸材は一般的に無色透明なため、コンクリート表面の見た目を変えずに対策を施せる利点の一方で、施工時の塗布状況や塗布範囲などを管理写真として記録に残すのが難しいことが大きな課題となっていました。

従来、「RCGインナーシール」に

おいてもその施工管理のためには塗布済箇所フェノールフタレイン（酸塩基指示薬溶液）を局部的に噴霧し、けい酸塩のアルカリ性を検出する方法が取られていました。

ただ、フェノールフタレイン溶液はエタノールに溶かした水溶液であるため揮発性を持つ危険物で、身体にも環境にも悪影響を及ぼす恐れがあるなど慎重な取扱いが必要となっています。

そこで、RCGインナーシールはその本来の優れた性能はそのままに、「施工確認用退色性着色工法」を用いることで施工済箇所の可視化を実現。

ここで用いられる着色材は施工当初は赤紫色を帯びていますが、日光など紫外線により数日で退色する性質を持っています。

最終的な仕上がりは無色透明となるため意匠を変えません。管理のための付随的な手順を減らすこの改良によりRCGインナーシール^{アルファ}工法へと進化しました。

待ったなしの老朽施設対策をよりスピーディーに進めるRCGインナーシール^{アルファ}工法は、メンテナンス軽減の秘策です。

お国自慢

薩摩焼

南九州営業所

徳重好美

鹿児島島の代表的な陶磁器「薩摩焼」の歴史は文禄・慶長の役で朝鮮出兵した薩摩藩十七代藩主島津義弘が八十人以上の陶工を連れ帰り定住させたことに始まります。

薩摩焼は主に「黒薩摩」「白薩摩」に分けられます。「黒薩摩」は「黒もん」とも呼ばれ、火山地帯特有の鉄分を多く含むシラス土壌の土から真っ黒い焼き物が出来上がります。素朴で頑丈なため普段使いの庶民の器として愛されてきました。

一方「白薩摩」は「白もん」とも呼ばれ、当初は陶工が朝鮮から持ち込んだ白陶土を、後には藩内で見出した同様の土を丹精に成形し透明釉を掛けたもので、表面の細かいヒビ（貫入）が特徴です。これらは藩や島津家だけが使用し下々の目に触れることはありませんでした。藩では職人を京都に派遣し色絵技法や金欄手を学ばせるなど技術向上に努め、慶応三年、幕府とは別に島津藩独自でパリ万博に白薩摩を出品するとヨーロッパの人々も絶賛、「SATSUMA」の名が広く知れ渡りました。

現在も県内には多くの窯元があり、国の伝統的工芸品にも指定されています。陶芸体験、絵付け体験のできる窯元もありますので鹿児島県内においでの際はぜひ体験してみてください。

岡三リピック商品群

- 補強土工法 多数アンカー式補強土壁工法 トリグリッド パラリンク フラットパネル RRR工法 ミニアンカーDO
- 軽量盛土工法 EDO-EPS工法 スチール資材 ライナープレート コルゲートパイプ 鋼製枠 カゴマット
- 敷設・埋設資材 ローマットHDB 多機能フィルター 軟素材 高密度ポリエチレン管 ハウエル管 環境商品 生ゴミ処理機
- 維持・管理 ARISライナー RCGインナーシールα 景観整備 ロッキーステージ デザインアート 建設CALS 現場編集長

データ連携で撮影から楽々 活用拡大中!「現場DEカメラPRO」

「現場DEカメラ」は電子納品ソフト「現場編集長CALSMASER」との情報共有機能が最初から組み込まれた工事写真記録アプリです。

Apple社のiPhoneやiPodTouch向け※に開発されたこのアプリは、予めPC上で作成した撮影リストや積算体系データを取り込み、iPhone上にて写真記録が必要な箇所の確認だけでなく撮影洩れのチェックもできるなど、工事管理をよりシステムチックに進めることができます。

iPhoneのデフォルトでは無用に大きい写真データを電子納品向けの適切な解像度に設定して撮影したり、様々な項目レイアウトや背景色が選択可能な電子小黒板を画像に挿入す

ることが可能など使い勝手にも配慮。撮影画像は電子小黒板を挿入したもの、しないもの双方を別途保存することもできるなどその活用幅を見据え利便性を高めています。



撮影した画像は「Dropbox」などのネットストレージに転送して関係者間での共有を図ることができるほか、USB経由によるPCとの接続にも対応（iTunes必須）。データは「現場編集長CALSMASER」に取り込めば自動的に項目ごとに整理されますので撮影後の分別作業に煩わされることもありません。

いま国土交通省では、電子小黒板機能を備えたカメラや携帯アプリに

よる工事管理について全国50以上の現場をピックアップしその耐改ざん性など信ぴょう性確保に向けた実証実験を実施していますが、「現場DEカメラ」はこれに向けて従来の無償版を改良した「現場DEカメラPRO」を開発。ストレージとの連携により改ざん情報を検知する機能が追加されています。

「現場DEカメラPRO」は、各企業での活用スタイルに合わせた項目のカスタマイズにも対応可能な柔軟性と併せ、上記実証現場の1/4あまりで採用されるなど使い勝手の面での評価は既に折り紙つき。電子小黒板は徐々にその活用が広がっています。

※ iPad系機種種のフルサイズ表示での操作には対応しておりません。



ちなみに八重歯は「犬歯が出てくる」と思いがちだが、歯が前後に重なり合う（＝八重）の意味からガチャ歯全般を指し犬歯に限らない表現。噛み合わせの良し悪しは体調にも影響するので、笑顔が商売の仕事でなくても矯正するに越したことはない。

日本では犬歯を持つ伝説上の存在といえ、鬼がその代表格だが、鬼は畏怖対象ではあっても必ずしも悪一辺倒ではなく、人間が敵わない強い存在として描かれる場合すらある。こうした犬歯への日本と欧米の感覚の違いが、そのまま寛容度の差となつていようだ。

八重歯考
よく「アイドル誰々の八重歯がかわいい」などと言う。自然で飾らない歯並びをカワイイと捉え、逆に「つけ八重歯」なる飾りものの犬歯まであるとか。そもそも縁起の良い「八」を含む名づけからして歓迎ムードだ。
翻って欧米では、犬歯が目立つ歯並びは悪魔やドラキュラなどを想起するため忌み嫌う傾向があるとされる。
キリスト教における悪魔とは神への反逆者であり、ひいては異教徒をも意味するものであるから、裕福で敬けんなクリスチャン家庭では五〜六歳頃から子供を歯科矯正することも珍しくない。いわゆる「ガチャ歯」をほっておくとお家の事情を勘ぐられるほど。



記：編集T